

木育かわら版は森林環境譲与税が使われています

CONTENTS

- 木育マイスター研修 振り返り …………… 1
- 木育マイスター研修&リーダー研修 …………… 2,3
- 県内幼保園での木育活動の取り組み …………… 4

みやざき木育マイスター研修 修了！

幼児から始める「みやざき木育プログラム」を県内に広げるため、中心的な役割を担う「みやざき木育マイスター」。その育成研修が令和6年2月の研修を持って修了しました。

研修では、①県の森林・林業に関する取組、②木材やそれを取り巻く産業に関する知識、③道具の安全な使い方など木工に関する技術の習得、またプログラムを通して保育者や園児への伝え方などを令和4年度から8回に渡って学びました。

◆ 1・2回目

実施日：令和4年6月3日(金)、
4日(土)

場所：めぐみ保育園(宮崎市)
研修内容：年長児が日常保育で取り組むプログラム「ひなた箱」の保育者向けの実践を通して、道具の使い方やプログラムの進め方、伝え方、材料に関する知識などを学びました。



◆ 3回目

実施日：令和4年10月12日(水)
場所：宮崎県立総合博物館
(宮崎市)

研修内容：年中児プログラム「チョロ船」を題材に、木育プログラムの企画の立て方、日程の組み方などを学びました。また、実践研修では「のこぎり」の使い方、姿勢、さらにフィールドワークで、博物館の学芸員さんから展示してある民具を通して、木の適材適所を学びました。



◆ 4回目

実施日：令和4年11月4日(金)
場所：宮崎県立総合博物館
(宮崎市)

研修内容：博物館内にある古民家の実物を使って、建築材料の部材の名称や役割などを学びました。後半は、前回研修したプログラム「チョロ船」を、園児が作りたいと思えるような見本に仕上げる作業を行いました。



◆ 5回目

実施日：令和5年6月9日(金)
場所：宮崎県立総合博物館
(宮崎市)

研修内容：年少児プログラム「森の雫」の実践と、プログラムのテーマ森と水との繋がりや理解を深めるため、治水や宮崎の地質と植生等について学びました。後半の企画書作りでは、年少児の木育プログラムの導入は、どんな話であれば園児にも伝わるのかみんなでも考えました。



◆ 6回目

実施日：令和5年10月27日(金)
場所：宮崎県東臼杵農林振興局
(延岡市)

研修内容：前半は、木材を安定した材料として使う上で重要な木材の乾燥について学びました。後半は、年少児プログラム「箸置き」を題材に、プログラムを通して何を伝えるのかみんなでも検討を行いました。



※7回目、8回目は中面に記載

木育マイスター研修 箸作り

木育マイスター研修7回目の研修は「箸づくり」です。「道具は身体の延長である」「イベントから日常保育へ」をキーワードに実施しました。

日時:令和6年2月7日(水) 10:00~16:30
場所:県庁7号館 733号室
指導:松井 勲尚 氏(木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授)
吉田 理恵 氏(ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師)
参加者:木育マイスター受講者3名

箸作りを通して何を伝えるか?

この箸作りのプログラムは、「日常の中で、箸を上手く使えない園児や箸を噛んだりする子をよく見かけますが、そんな園児も自分で使うお箸を自分で作れば大事にしてくれるかもしれない。」という保育者の願いから始まりました。

既に実施している園では園児が作ったお箸で食べ物を大事に食べ、子どもの生活も変わったことを保育者が実感されています。

箸の材料にはヤマザクラを使用し、県の木を知ってもらう意図があります。ヤマザクラはオビシギよりも堅く、削る作業に長い時間がかかるので、作業を通して根気が培われます。

研修では、そうした想いがどうやったら伝わるかを考えながら、「道具」は身体の延長であり、森と人の健康と道具の健康(道具を良い状態にしておく)が安全に繋がること、そして、箸作りはつくる姿勢が重要になることを意識し、箸作りの工程を確認しながら、協力しあい制作に取り組みました。



木育マイスター&木育リーダー研修

木育マイスター研修8回目の研修はリーダー研修との合同研修です。マイスター受講者は、指導の仕方等を学び、リーダー(保育者)は、リーダーの目的と道具の安全で正しい使い方を身に付けました。

日時:令和6年2月8日(木) 10:00~16:00
場所:ひかりの森こども園(三股町)
指導:松井 勲尚 氏・吉田 理恵 氏
参加者:ひかりの森こども園3名,あやめ原こども園4名
木育マイスター受講者3名

ガイダンス講義

まず松井先生から木育リーダー研修の目的について講義がありました。※木育リーダー研修とは、幼保園が自走して安全な木育活動が出来るよう、保育者を対象にした研修です。

今回はチョロ船作りを通し、ノコギリの正しい使い方を習得します。まず、ノコギリの刃の仕組みと安全な扱い方(運び方、置き方、持ち方)を学びました。その後、実際にマイスター候補者のアドバイスを受けながらノコギリの挽き方実践を行いました。また、ヒノキとスギなど樹種による違いや、小枝などを切る体験もしました。

実践では、薄く切ることを意識することで、挽き方や力加減も慎重になったようです。

午前中の感想

- ・木材の切る方向によって適した切り方があることを初めて知りました。
- ・最初は力が入ってしまいましたが、実践を繰り返すことで力加減が分かるようになりました。



木育リーダー研修 チョロ船作り

チョコ船作りプログラムは、宮崎の文化(チョコ船)とオビスギが400年も前から深く繋がっていることを子どもたちに伝えるために開発されたプログラムです。

チョコ船作りは木材をノコギリで切り、紙やすりで船の形に削り完成です。

切る作業では午前の部で学んだノコギリの使い方を意識しながら材料を切り出しました。

削る作業では、粗い紙やすりと細かい紙やすりで磨いた面をそれぞれ比較し、触感の違いを確かめました。

保育者の感想

- ・今日学んだ正しいノコギリの使い方を忘れないよう、反復することが大事だと感じました。
- ・ノコギリを使う際に姿勢が悪いと、材料も綺麗に切り出せないため、姿勢を維持するように心がけたいです。
- ・チョコ船について初めて知りました。紙芝居があるので導入しやすいと思います。
- ・実際に作ってみて大変さが分かると同時に、子どもたちに出来るか不安です。
- ・やすりがけをする過程で肌触りが変わるのを子どもたちにも体験して欲しいと思いました。

先生からは、反復がとても大事であること。姿勢は自分では気が付かないので、見ている方が直してあげていくことが気づきに繋がるということが伝えられました。



～木育マイスター研修振り返り～

全ての研修を終えた後、研修時間内でできなかった樹種の確認を行い、2日間の研修の振り返りとこれからの活動について思うことなどを共有しました。

<箸作りについて>

「今までの研修が積み重ねとなって身につけているのを感じました。」「身近な道具で箸を作れたのは良い教材だと思いました。」「8回の学びや研究授業での実践を通して、基本姿勢でつくることや、ちょっとした失敗も助言により克服できることを実感できました。今後、自分が指導することを前提に頑張りたいと思います。」

<今後について>

「保育者にどう伝えれば良いのか等、活動が始まってから3人で共有しながら進めていければと思います。」「園児をサポートして頂ける方や先生方としっかりと連携を取ればと思います。」「自分が木について伝えたいこと等念頭に置きながら自分なりのマイスターを構築していきたいです。」



吉田先生

今後は、モチベーションや学び続ける姿勢を保てるように出来れば良いと思います。皆さんこれまでの学びをちゃんと落とし込んでその場で動かれている感じがしました。

松井先生

箸づくりは、日常保育の中で保育者が指導していくので、皆さんの出番は、保育者のリーダー研修となります。トラブルは想定出来ないもので、研修は、皆さんで協力して実践できると良いですね。

今後は皆さんが、マイスターとして、「みやざき木育」の伝道師として活躍されることを期待しています。

県内幼保園での木育活動の取り組み 各園で取り組んでいる木育活動をご紹介します

めぐみ保育園 (宮崎市)

令和2年～4年度まで、みやざき木育プログラム開発のモデル園として協力いただいた園です。

お箸作りは、年中児を対象に日常保育の中で進めています。ノコギリを使い箸の材料を自分の手の大きさに合わせて切り、数ヶ月かけて紙やすりで磨いていきます。随時、保育者が園児の進捗を確認し、次回の作業内容をメモし、スムーズに行えるよう工夫しています。ひなた箱作りは年長児の8月からはじめ、保護者や地域サポーターのサポートを受けながら卒園までの完成を目指して進めています。

また、園では保育者同士で共有するために、プログラムごとに保育者研修も行っています。



一万城幼稚園 (都城市)

当園は令和3年度からSDGsに取り組んでいます。令和6年2月3日(土)は、木育参観として、保護者も参加し木育へ理解と関心を深めてもらう行事を行いました。



木育講話

カメラ作り

ココロこもちゃ作り

ミニカー作り

西米良村立ふたば園 (西米良村)

西米良村立ふたば園では、年長・年中児を対象として、森林の働きや林業のお仕事について知ってもらう事を目的に森林環境教育を実施しました。

令和5年9月27日(水)には熊本県立南稜高校の総合農業学科林業コースの生徒による森林・林業のクイズを交えたお話と木製カメラ作製を行いました。

また、令和6年2月15日(木)には、西米良村林研グループ会員と児湯農林振興局西米良駐在所職員を講師に迎え、森林講話と椎茸駒打ち体験を行いました。子ども達は、初めての駒打ち体験に緊張していましたが後半は慣れた様子で上手に駒打ちすることが出来ました。



木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえで、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会(宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室)

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ